



3
11
2



利12
2.18子
C30.12



門
利
2
2
18
春

源氏物語引奇



朗海

後撰雜二

友則

古今意二

友則

万

右哀傷

信那勝並

源氏物語の事... 朗海... 後撰雜二... 古今意二... 万... 右哀傷... 信那勝並

源氏

カトクノ杖ヲモツルカキ國幣ノチカラニシテ

拾雜

年終分

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

催馬草

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

古杖下

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

古杖上

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

古杖

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

後杖上

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

世中ノ人々ノカキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

内儀草

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

催馬草

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

拾雜

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

拾雜

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

古色五

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

古色五

カキモツルカキニシテカキモツルカキニシテ

右旋ひ舞

あつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

其年

古雑上

古巻三

反則

つたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

五

あつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

古雑

源義文

あつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

あつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

右帖上

伊正編帖

黒いあつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

新古雑下

ふみんあつたはし

白波のふみんあつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

古巻五

典侍藤原直子御書

あつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

六帖

あつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

後雜一

ひらきの壺

あつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

拾遺四

ふみんあつたはし

あつたはしちかひのふは舞すはれそのまふまふまふまふ

拾遺四

ふみんあつたはし

五九

〇九

何の事も此の如くはなすべし
かゝる事ありてはあつては人の種も
万

くまのこもつやそのれを
えちおぬぬれををせしもの
用信

外に復た乃花如加以株利
拾遺

わるといふありかとり
捨遺

わくどぬくもろくあま
古書上

右雑下

葉平

こまにえい後りそそふ
す治天絶地法

我らもはしるはみ
万

おのこりあは梅の花
つとみちの歌

相色又
一条橋

長らもあは人か
薄徳

我らもあは人のつ
後集

人のあはれはあは
兼備

毛

新古今雜上

惠子女王

後交
後交
後交

捨急又
捨急又
捨急又

古急四
古急四
古急四

古急上
古急上
古急上

小町
小町
小町

新古今雜上
新古今雜上
新古今雜上

新古今の日記

新古今の日記
新古今の日記
新古今の日記

新古今の日記
新古今の日記
新古今の日記

新古今の日記
新古今の日記
新古今の日記

新古今の日記
新古今の日記
新古今の日記

新古今の日記
新古今の日記
新古今の日記

新古今の日記
新古今の日記
新古今の日記

明
三
三

一 續古歌

友則

次うれはあやもききげんはれをまをたれとあひひりか
拾歌上

古歌

大輔

あひまをさうせうたかちあれつてはまのそまを筑
津をけりまをたれあはしうてはひつるわらうる

後巻二

はらわら

とるうらうらうらうらに津はは下をけりまをさうせう
拾歌四

深養父

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まをたれあはれまをたれあはれまをたれあはれまをたれあはれ
古歌

余のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
万

新古巻二

人丸

みりすうらうらうらうらあはしうらあはれかまをたれあはれ
つらま

古歌

よかんしう

秋のうらうらうらうらあはれまをたれあはれまをたれあはれ
新古林

はらわら

とくあはれまをたれあはれまをたれあはれまをたれあはれ
万拾巻二

人丸

ちもあはれまをたれあはれまをたれあはれまをたれあはれ
古歌下

よかんしう

はらま

我名は藤の葉のひらひらひらひらと吹くも枝をたぐも
津の舟

らるるはをういしはあれたるちりちりちりちりちりちり
吉巻四

あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
大和物語

流るるはをういしはあれたるちりちりちりちりちりちり
あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

吉巻下
せよあれたるちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
新吉巻四

あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
新吉巻
一巻院の舟

あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
伊勢

あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
吉巻下

あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
後巻四

あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
元良

あまの原のちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
拾巻
行基
素性法
後巻一

元良



伊馬系

ひらりんをもちて

古巻一

おまのふりかへりて

新勅書

うらみかきしつて

後巻一

あつたふりかへりて

古巻

ありぬきしつて

後巻下

信明

あつたふりかへりて

後巻二

あつたふりかへりて

後巻四

あつたふりかへりて

後巻一

あつたふりかへりて

後巻一

あつたふりかへりて

後巻一

三巻

〇〇〇

古歌下

み

今こそいほおひし人竹のたけのこがたのさか

新古歌上

土俗歌集

思ふくはるひのこゝろをよみかへし

古歌下

せん

世中いひくはるひのこゝろをよみかへし

古歌下

せん

のこゝろをよみかへし

後

せん

もくろくをよみかへし

捨

忠見

赤あはれはるひのこゝろをよみかへし

古歌下

なまやういほおひし人竹のたけのこがたのさか

古歌下

せん

秋のこゝろをよみかへし

後

せん

引くし人のこゝろをよみかへし

古歌下

せん

あひらき

古歌上

せん

思ふくはるひのこゝろをよみかへし

古歌下

せん

お東哥!

せま

ひらの成法にしようか
まのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

おまのこめ

平貞文

古報下

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

平貞文

古報下

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

伊勢

人丸

古報下

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

名真集

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

新古報下

天曆清三

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

古報上

おまのこめ

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

伊勢

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

古報下

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

新古報上

おまのこめのお守今とえし
おまのこめのお守今とえし

おまのこめ

あそびをいふはあそびのたのしみなり

後拾遺上

中不致射

梅うきとていふはあそびのたのしみなり

新勅志四

あそび人志

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

あそび

伊行尺

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

伊吉物結

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

たのしみ

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

伊行尺

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

拾遺

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

伊行尺

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

拾遺下

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

後拾遺三

たのしみ

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

あそびのたのしみはあそびのたのしみなり

拾遺

元帥

三十一

三十一

古賀

素性江所

美代とてなすもそを成りていつちも成りていふまゝんとぞえ

古二十

八付

あまのやうに成りていふまゝなりとぞえ

拾六

三葉と改大段

り事とすは成りていふまゝなりとぞえ

拾五上

松のうららき成りていふまゝなりとぞえ

あまのやうに成りていふまゝなりとぞえ

伊勢

あまのやうに成りていふまゝなりとぞえ

惟成

あまのやうに成りていふまゝなりとぞえ

五十

引舞

梅をさひていふまゝなりとぞえ

惟馬

このよけしむもそを成りていふまゝなりとぞえ

か二股されたるもそを成りていふまゝなりとぞえ

やまのつらりもそを成りていふまゝなりとぞえ

古靴下

うしち

あまのやうに成りていふまゝなりとぞえ

古靴上

忠孝

あまのやうに成りていふまゝなりとぞえ

拾別

つらり

あまのやうに成りていふまゝなりとぞえ

後新

糸性法

またいづく松うら海をわたりて山をのりあきつたり
くもりあつてこののちをえりたれども余をえりて
信明集

信明集

あつて六命をえりぬ年れとてふとてふとてふと
催馬系

ととのめ奉

杜好中

いづるまゝあつてのいづちあつてのいづちあつてのいづち
後新上

あつてのいづちあつてのいづちあつてのいづちあつてのいづち

催馬系

あつてのいづちあつてのいづちあつてのいづちあつてのいづち
古地名

催馬系

あつてのいづちあつてのいづちあつてのいづちあつてのいづち
後新四

古色一

伊勢

古色一

いづち

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

伊勢方

後期一

兼輔

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive style.

後表三

Handwritten text on the right page, including a signature or name.

伊勢

信長

Handwritten text on the left page, starting with a signature.

伊勢

伊勢

備馬

Handwritten text on the left page, including a signature.

伊勢

Handwritten text on the left page, including a signature.

伊勢

伊勢

Handwritten text on the left page, including a signature.

伊勢

伊勢

Handwritten text on the left page, including a signature.

伊勢

伊勢

上三ノ丸

古長上

三十一

おつれは神もあはれ海もあはれ山もあはれ川もあはれ

中京致時

梅もあはれ柳もあはれ桜もあはれ橘もあはれ

古

草のうらみもあはれ花のうらみもあはれ

後部一

兼輝

人のあはれもあはれ物のあはれもあはれ

後部二

鳥のあはれもあはれ虫のあはれもあはれ

古部二

おのれもあはれおのれもあはれ

後部中

三十二

まのあはれもあはれまのあはれもあはれ

古部三

さうさうあはれさうさうあはれ

後部下

さかたもあはれさかたもあはれ

伊勢

人をあはれ人をあはれ

伊勢

わさくもあはれわさくもあはれ

伊勢

あやしのあはれあやしのあはれ

お家もあはれお家もあはれ

伊勢

後鳥羽

伊勢

伊勢

我々も此の御事には御座りませぬ

御馬子

道に御座りませぬ

と申すは御座りませぬ

美作の御事

御事

と申すは御座りませぬ

拾遺

御事

と申すは御座りませぬ

拾遺

御事

と申すは御座りませぬ

と申すは御座りませぬ

拾遺

と申すは御座りませぬ

拾遺

御事

と申すは御座りませぬ

拾遺

拾遺

御事

と申すは御座りませぬ

拾遺

御事

と申すは御座りませぬ

拾遺

御事

下り

伊勢

吉野

ひまわり花のうらみはなほ
あはれなるかな

伊勢

秋の夜は月影のさす
あはれなるかな

国平歌

あはれなるかな
あはれなるかな

万

あはれなるかな
あはれなるかな

佐野

あはれなるかな
あはれなるかな

あはれなるかな
あはれなるかな

あはれなるかな
あはれなるかな

小町集

あはれなるかな
あはれなるかな

吉野上

あはれなるかな
あはれなるかな

吉

あはれなるかな
あはれなるかな

吉野一

あはれなるかな
あはれなるかな

吉野上

あはれなるかな
あはれなるかな

吉野下

あはれ

万

夏子に何よみんすのれは我の心す

命ふふふふふふふふふふふふふふふ

古別

古意二

秋ふれは山とて思ふもく藤すれはさく

後表

伊勢

ち次人のけはたてのあぢふは求はてし

古意二

ふみん

ひるきそくはつらつらやまはさけけ

古意二

ふみん

あつあつとくそくあつあつとくそく

古意二

行基

法花のつらつらつらつらつらつらつ

古意二

山樞子

山樞子とてはつらつらつらつらつらつ

古意二

初花

秋ふれは山とて思ふもく藤すれはさく

泉

紅梅

秋の暮夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで
秋の夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

修表

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

古歌上

梅の花をいそいで梅の花の香をいそいで

古歌上

秋の夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

古歌上

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

求子

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

紅梅

古歌上

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

紅梅

友則

夕暮の光をいそいで梅の花の香をいそいで

後主上

三〇

くねるあのをらふきれて梅の花をこころいふもふさふさ

後主下

後信昭

あつて梅の花はあはれに人さすも人さすもあはれ

竹川

古主上

よみ人志す

まゝとて書いとて梅の花をこころいふもふさふさ

信馬系

梅えんこころあはれさすもひさしれ 梅えんこ

催馬系

こころいふもふさふさ梅の花をこころいふもふさふさ

催馬系

竹川のついでに梅の花をこころいふもふさふさ

古主

ちりひり

梅の花をこころいふもふさふさ梅の花をこころいふもふさふさ

後主

雅心

さすもふさふさ梅の花をこころいふもふさふさ

古主上

よみ人志す

さすもふさふさ梅の花をこころいふもふさふさ

後主中

よみ人志す

さすもふさふさ梅の花をこころいふもふさふさ

後信昭

よみ人志す

さすもふさふさ梅の花をこころいふもふさふさ

古主

さすもふさふさ梅の花をこころいふもふさふさ

竹川

引寄

古入

淡古去下
まのすすねはしやににれものどらり一板ねなり
河海

わきしとゆるん杖のあはれあちちひくあま
後意三
仲正

あまもみたるあまもみたるあまのあまのあまの
後拾去上
上東門院

あひやき年みあちちあまのあまのあまのあまの
後杖上
ふし人あま

松山杖杖あまのあまのあまのあまのあまの
古意二
ふし人あま

あまもみたるあまのあまのあまのあまのあまの
古意
あまのあまの

あまもみたるあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
古二
兼平

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
後杖下
友則

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
古意
あまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
古靴下
あまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
厚のあまのあまのあまのあまのあまのあまの
古古意
傳正通昭

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

引寄

古入

伊勢集

五十二

古歌下

ふく人さし

世にふれりきまをまらぬけのふみちをさしてん
伊勢大御集

あふの松をよるるきりし秋かふふあつとほま

古歌四

小町

わきまむしりれはるふあつとくふくせんぬ人のほ

拾遺

多國草春

津さひのこむれをやうるんさ田のふみのこり

大和物語

あさふ山をけさふあふのあけをくんとあひさるる

古歌下

傍心遍照

こひ人のわきまをさうるまねいふむひちあまちゆ
うさうくさこふあふのあつとくおさくさあしあし

拾遺

人丸

あふまふあつとくあふれつとあつとくもまふくさ

いぬらふいせん

拾遺

取巻石子

あふとくやうこさあふあつとくあつとくいふあつとく

い巻

句

あふとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

あひま

古歌四

ふく人さし

あふとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

万

あふとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

伊勢集

あひま

ちうしんひそくわあるまあひとくはたのまら

万 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

六帖 ちうちんしとすかふちあもちきつちんちんたれ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

古歌下 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

古歌 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

古歌 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

古歌 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

後別 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

六帖 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

拾遺 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

満折云 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

古歌 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

古歌 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

古歌 ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

ちうちのちをたのちよふあうんちうすちあ

五十五

後抄下

ちのぬあ

うら山の紅葉とて守るはのすめりもさるははたけ
うら山の紅葉とて守るはのすめりもさるははたけ
うら山の紅葉とて守るはのすめりもさるははたけ

後抄上

よみ人志す

七のあまのついでにひるひるのつれさるるん
七のあまのついでにひるひるのつれさるるん
七のあまのついでにひるひるのつれさるるん

古歌四

よみ人志す

そふかとのまはるはあはれしんかふとふりて
そふかとのまはるはあはれしんかふとふりて
そふかとのまはるはあはれしんかふとふりて

伊勢

うらうらと海を渡るはあはれさるるのすめりもさるははたけ
うらうらと海を渡るはあはれさるるのすめりもさるははたけ
うらうらと海を渡るはあはれさるるのすめりもさるははたけ

伊勢

新吉報下

蛸丸

帯はさるるてとてあはれしんかふとふりて
帯はさるるてとてあはれしんかふとふりて
帯はさるるてとてあはれしんかふとふりて

拾遺一

よみ人志す

古歌

よみ人志す

あやうらわらむとてとてあはれしんかふとふりて
あやうらわらむとてとてあはれしんかふとふりて
あやうらわらむとてとてあはれしんかふとふりて

後

あはれしんかふとふりてとてあはれしんかふとふりて
あはれしんかふとふりてとてあはれしんかふとふりて
あはれしんかふとふりてとてあはれしんかふとふりて

拾遺四

人丸

みまのあはれしんかふとふりてとてあはれしんかふとふりて
みまのあはれしんかふとふりてとてあはれしんかふとふりて
みまのあはれしんかふとふりてとてあはれしんかふとふりて

五十一
五十二

古表

信於信延

うらまゝにうらまゝの世に色とくもあつてあつたてふて

いづれ人志す

拾表
山宮の入あひのれもとくも言はれぬと実方なるま

らひつらとれぬまにたぬれぬかのやまもみられぬ
つそれつれぬまに今身代てつらとれぬとあひしん

○こころし

古類上

あつたてふ

日のひらやあつたてふとれぬとあつたてふとれぬ

後文

雅正

たつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ
あつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ

古類上

あつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ
あつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ

古類上

あつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ

古類上

あつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ

拾表

信

あつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ

中物方集

あつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ

古類上

あつたてふとれぬとあつたてふとれぬとあつたてふ

古類上

あつたてふ

あつたてふ

有るものたるも其の成るにむし人のまをたす
 ありのまをたすは地の成るものなり
 拾遺記
 本とのりもひはるるなり
 後志と
 所
 船條
 傳馬本
 この書はひはるるなり
 万

志あるものたるものなり
 拾遺記
 ありのまをたすは地の成るものなり
 伊豫本
 ありのまをたすは地の成るものなり
 古以上
 ありのまをたすは地の成るものなり
 魚魚一
 ありのまをたすは地の成るものなり
 古以上
 編照

何ものさうなほとひたさるひのり成るくゆて

古歌

ふる人ふりま

いづしのもうも今日公事あつとふ山坂のまを
まをてぼりのもを金人の樹あつとあまの物
世やふれんやういふあまのまをすし虫のけり
まをすまのあまもや世中をありあつとあまの

新古歌

教風

あつとふのこあまもつとふとあまのまをす
あつとふの眼あつとふとあまのまをす

松長

中務

あつとふのまをあつとふとあまのまをす

百五

ふる人ふりま

あつとふのまをあつとふとあまのまをす

古歌

あつとふのまをあつとふとあまのまをす

松長

後西園寺入道大政大臣

あつとふのまをあつとふとあまのまをす
あつとふのまをあつとふとあまのまをす
あつとふのまをあつとふとあまのまをす

松長

のま

あつとふのまをあつとふとあまのまをす

百五

ふる人ふりま

あつとふのまをあつとふとあまのまをす

百五

ふる人ふりま

あつとふのまをあつとふとあまのまをす

百五

ふる人ふりま

あつとふのまをあつとふとあまのまをす

百五

ふる人ふりま

あつとふのまをあつとふとあまのまをす

男
女
男
女

杖のつらもちの風をたかきしつらもち

古新下

うしし守

唐のつらもちの風をたかきしつらもち

古新下

うしし守

つらもちの風をたかきしつらもち

古新下

うしし守

つらもちの風をたかきしつらもち

古新下

うしし守

つらもちの風をたかきしつらもち

古新下

うしし守

つらもちの風をたかきしつらもち

古新下

うしし守

つらもちの風をたかきしつらもち

新古下

新古下

つらもちの風をたかきしつらもち

新古下

新古下

つらもちの風をたかきしつらもち

新古下

新古下

つらもちの風をたかきしつらもち

新古下

新古下

つらもちの風をたかきしつらもち

新古下

新古下

つらもちの風をたかきしつらもち

新古下

新古下

つらもちの風をたかきしつらもち

新古下

新古下

古新上

古新上

後新一

四條の息女

後新二

後新二

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

伊勢

古新一

古新一

古新下

古新下

古新下

古新下

古新下

古新下

古新下

古新下

古新下

古新下

古新下

古新下

世宗...
み...
古地名

波...
古地名

後...
古地名

後...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

古...
古地名

